

# アマチュア 『疑心暗鬼』

プロとアマチュアの違いは、  
自然を見方に付けたか、敵にまわしたか。

パヴェーゴルフ  
**VALUE GOLF**  
www.valuegolf.co.jp

『ツアー4勝目を挙げた  
松山英樹選手を見届けた  
ギャラリーの数は、65万5434人!』

まだ皆さんの記憶にも新しいと思うが、米ゴルフ男子ツアー「フェニックスオープン」(TPCスコッツデールIIパー71)最終日、連覇を目指して4打差の3位からスタートした松山英樹選手は1イーグル、3バーディーの66で回り、通算17アンダーで並んだウェブ・シン普森(31歳米国)との4ホールのプレーオフを制して優勝した。丸山茂樹選手の3勝を抜き、日本人男子で単独最多となった。

この最終日は、米国最大のスポーツイベントであるNFLの「スーパーボウル」と日程が重なった影響もあり、5万8654人のギャラリーとなったらしいが、7日間で3日(水曜、金曜、土曜)でギャラリー数の新記録を達成している。

ギャラリーの声援が力になったと、選手たちが言うように、応援の声は励みになる。日本でも、新記録を達成するような、多くのギャラリーに楽しんでもらえるようなトーナメントが開催されることを願っている。

日本のツアーをみると、2016年のギャラリー数は男子ツアーが日本で開催された24試合で34万9681人(2015年は33万6427人)(日本ゴルフトーナメント振興協会調べ)。一方、女子ツアーは同じ37試合(熊本地震のため中止になった1試合を除く)が開催された昨シーズンから2万9686人減少し、53万894人。1ラウンドごとの平均値を見ると、男子ツアーの3680人に対し、女子ツアーは4387人と大きく上回った。1試合当たり

の最高入場者数で見ると、男子ツアーは松山英樹、石川遼、アダム・スコット(オーストラリア)が出場した10月の「日本オープンゴルフ選手権」で、4日間で4万5257人を記録。女子ツアーは春の大型連休と重なった5月の4日間競技「ワールドレディス選手権 サロンパスカップ」で、3万4095人を集客している。

一概に数だけでは、比較することはできないことは百も承知だが、日本のツアーが見習うべきところはあると思う。例えば、ゴルフ中継の放映時間を見ても、日本では地上波で放送するもののライブではないし、土日のみの2日間しか放映されない。一方、アメリカのツアーは試合初日から全世界に向けてライブ配信が行われ、様々なゲストが出演するなど、趣向が凝らされている。そのため、スポンサーの露出もかなり多く、費用対効果も高い故に、日本の企業も国内ツアーではなく、アメリカのツアーのスポンサーとなるケースも出てきている。

ギャラリーを増やすためには、強いスター選手を誕生させることは近道ではあるが、スポンサーが喜んでくれる試合、ファンを楽しませ、会場に行きたくなる仕組み作りが必要とされる時代になっているのだ。



戸張 捷 Sho Tobaru

1945年、東京生まれ。高校からゴルフを始め、3年で全日本ジュニア3位、大学4年で日本アマ9位。住友ゴム工業(現SRIスポーツ)に入社後、株式会社ダンロップスポーツエンタープライズへ出向。トーナメントディレクター、プロデューサーとして日本ゴルフ界に貢献した。現在は、ゴルフキャスターとして活躍するほか、ゴルフトーナメントやイベントのプロデュース、コンサルティングなども手掛けている。